

ゲスナー『万有書誌』に収録された 印刷本書誌情報の研究調査

雪嶋 宏一

要旨

コンラート・ゲスナー『万有書誌』（1545年）には印刷本の版の同定が可能とみなされる書誌記述がのべ3,865件収録されている。15-16世紀印刷本の書誌・データベースを利用して、これらの記述からのべ3,210件の版を同定あるいはほぼ同定した。これらの調査に基づいてゲスナーによる記述の中で印刷出版地、印刷出版者、印刷出版年の誤記を調査したところ、誤記は全体の3.8%以下であることが判明したことから、彼の記述は相当に正確であるとみなすことができよう。副出や分出によって重複して記載された書誌記述を除いてゲスナーが知りえた印刷本は2,734版であった。これらの版の印刷出版年、印刷出版地、印刷出版者について分析した。出版年では1469-1545年の範囲にあり、出版地ではバーゼル、ヴェネツィア、パリ、リヨン、シュトラスブルク、ケルンが全体の大半を占め、出版者ではゲスナーの記述とは若干異なり、リヨンのグリフィウスが首位を占め、以下バーゼルのペトリ、バーゼルのフローベンの順であり、ヴェネツィアのアルドは重複した記載が多いため順位が下がった。そして、重複して記載された版を分析すると、アルド印刷のギリシア語書が上位を占め、次にバーゼル版が続いており、ギリシア古典が大半を占めていた。さらに、本書にドイツ語、フランス語、イタリア語の俗語文献40件が含まれていることが判明し、それらの多くが宗教改革指導者の文献であった。

Summary

Conrad Gessner's *Bibliotheca Vniuersalis* (Zürich, 1545) contains a total of 3,865 bibliographic descriptions identifiable as the edition of printed books. From these descriptions a total of 3,210 are able to be identified exactly or almost the editions with the bibliographies and databases of books printed in the 15-16 century. According to these surveys, errors about place of publication, publisher and year of publication written by Gessner turn out whole 3.8% below, the description of him is equivalent to exactly as it was. The number of books gained by Gessner except the bibliographic description provided by secondary and analytical references are counted 2,734 editions. These editions are analyzed in year of publication, place of publication and publishers; the year of publication ranges 1469-1545, the places of publication are mainly

as Basel, Venice, Paris, Lyon, Strassburg and Cologne, and then as to publishers somewhat unlike Gessner's description level, the first place is occupied by Gryphius in Lyon, followed by Petri and Froben in Basel, and Aldus Manutius in Venice. As a result of analysis of the editions mentioned repeatedly some Greek books printed by Aldus are at the top, and then some Basel editions follow below. Most of these books are related to the Greek classics. Further, *Bibliotheca Vniuersalis* contains 40 literatures in Germany, French and Italian, many of them are books written by the Protestant leaders.

1. 本研究調査の目的

スイスの博物学者コンラート・ゲスナー（Gessner, Conrad, 1516-65）の『万有書誌 *Bibliotheca Vniuersalis*』第1巻（Zürich, 1545）は図書館情報学の古典としてつとに有名であるが、その中どのような文献情報がどのような形式でどれだけ数量が収録されているのかという問題についてはこれまであまり詳細な研究は行われてこなかった。筆者はそれらの問題の解明を課題としてこれまで研究を行ってきた。

2009年度には『万有書誌』に収録された著者名を約5,200名と算定することができ、ゲスナーがどのような情報源を利用していたのか考察した¹。2010年度には『万有書誌』に収録されている16世紀に活躍した著者に注目して、彼らと宗教改革との関係を調査するとプロテスタント指導者に多くの紙数を使っていたことが明らかになり、プロテスタントであったゲスナーが人文主義とプロテスタンティズムの観点から本書を編纂していたことが判明した。その点からゲスナーの本書編纂の意図がカトリック側の書物破壊への抵抗であったとみなした²。

また、2011年度には『万有書誌』に収録された印刷本の書誌記述要素の起源についての研究を行い、ゲスナーが同時代に印刷出版業者によって発行されていた印刷販売書目録を広く収集して、そこに見られる著者名、書名、印刷地、印刷者、印刷年、判型、紙葉数などの記述を参考にして、それらをそのまま引き写すのではなく、版の確定が可能になるように現物を見ながら序文の引用や内容注記を追加して、ある程度システマティックな書誌記述要素を確立したとみなした³。

さらに、2012年度には収録された印刷本の版を確定することが可能な記述がなされた書誌の件数を算定した。その結果、著者1,706名分、印刷本のべ3,855件が収録されていることが判明した⁴。そして、収録された印刷本の印刷年代の幅と年ごとの件数、印刷地の範囲、印刷地別のべ件数、印刷者別のべ件数を算出してゲスナーが利用した印刷本の傾向を考察した。それによれば、ゲスナーはイスタンブルからポルトガルまで、ユトレヒトからリトアニアのヴィリニュスまで、ハンブルクからナポリに至る広い地域で出版された印刷本の情報を収録していたが、バーゼルで印刷された書物を最も多数利用していたことが判明した。そして、ゲスナーが利用した書物の印刷出版業者はバーゼルのPetri, Winter, Froben, ヴェネツィアのAldo Manuzio, パリのWechel, リヨンのGryphius, ケルンのGymnich等が中心であった。

このような研究を経て、2013年度は『万有書誌』に収録された印刷本のデータを基礎にして、ゲスナーがどのような版の印刷本を実見したのか、あるいはその情報を知っていたのか、ゲスナーの記述の正確性はいかなるものか、さらにゲスナーの情報にはどのような特徴があるのかを解明することを目的として研究を行った。ゲスナーが記述した印刷本の書誌情報から実際の版を確定するため、利用可能な15-16世紀印刷本の書誌、データベース、蔵書目録を検索して一致する書誌データを抽出した。本稿ではこれらの調査の概要と、利用した書誌・データベース、検索して版が確定した書誌情報から判断されるゲスナーの記述の正確性とその特徴、収録された文献の特徴、さらに収録されていた俗語文献について考察する。

2. 調査の方法と過程

ゲスナーの書誌記述からそれらの実際の版を検索するため、まずはラテン語で記述された著者名の表記をヨーロッパ研究図書館コンソーシアム（Consortium of European Research Libraries）のオーソリテイ・ファイル（CERL Thesaurus）を利用して各データベースや目録での表記形を確認した⁵。そして、本稿の末尾に挙げた15-16世紀の印刷本の書誌、文献情報データベース、図書館蔵書目録を利用して版を確定あるいはほぼ確定した⁶。

15世紀印刷本の版の確定には英国図書館で構築されているデータベースISTC（183件ヒット）を主に利用した。16世紀のドイツ、スイス、オーストリアのドイツ語圏の印刷本についてはVD16（1,968件ヒット）を利用したが、スイスの16世紀印刷本の一部についてはVD16にまだ登録されていないデータがあり、それらがスイスの古版本データベースe-raraに登録されているためそのデータを利用した（5件）。イタリアの16世紀印刷本についてはEDIT 16を主に利用した（426件ヒット）。また、ヴェネツィアの印刷業者マヌーツィオ家（Manuzio）の印刷本（アルド版）についてはA. Renouardの専門書誌を参照した（Renouard 1991）。

フランスの16世紀印刷本については網羅的なデータベースが完備していないためフランス国立図書館蔵書目録（BNF）（270件ヒット）に基づいたが、リヨンの刊行物についてはBaudrier編纂のリヨン印刷本専門書誌*Bibliographie lyonnaise*を利用した（14件）。また、パリの印刷業者エチエンヌ家（Estienne, Henri & Robert）についてはA. Renouard（Renouard 1843）、バード（Bade, Josse）とコリーヌ（Simon de Colines）の印刷本についてはP. Renouard（Renouard 1967, 1990）の書誌を参照した。また、パリとリヨン以外のフランスの諸都市（特にハーゲナウ）で16世紀に印刷出版された印刷本についてはRB16を参照した。なお、フランスの印刷本についてはこれらの書誌、目録では十分に検索できない場合が多かったため、キーワード検索が可能なOCLC WorldCatを利用した（288件ヒット）。しかし、目録記述が不統一で、また記述の精粗が著しいため版の確定には不十分であった。一方、印刷出版地が不明な書物を検索する場合にはWorldCatが唯一の検索ツールになった場合もあった。

低地地方（Low Countries 今日のオランダ、ベルギー地方）については*Netherlands Books*（NB）

を利用した（2件）。また、バイエルン州図書館総合目録（Verbundkatalog des Bibliotheksverbunds Bayern (BVB)）（41件）、英国図書館目録（BL）（6件）も利用した。さらに、オランダ王立図書館（Koninklijke Bibliotheek）、ベルギー王立図書館（Bibliothèque royale de Belgique）、オーストリア国立図書館（Österreichische Nationalbibliothek）、リヨン公共図書館（Bibliothèque municipale de Lyon）等の蔵書目録も参照した。検索の過程で2012年度に見落としていた記述を補遺して、著者名1,709名、のべ3,865件の書誌データを得た。そして、そのうち版を確定あるいはほぼ確定することのできた書誌データはのべ3,210件であった。

3. ゲスナーの記述の正確性

上記に示した3,210件の書誌・データベースの書誌記述とゲスナーの記述とを比較してゲスナーの誤記を算定した。ここでは刊記の誤記を取り上げる。その理由は、ゲスナーの記述のうち刊記が最も明確に記述されているため、間違いの判定が容易だからである。書名を調査の対象にしなかった理由は、ゲスナーは書名をその本に記述された通りには必ずしも記述しておらず、書名に使われているラテン語の語順を入れ替えたり、書名の一部のみを記述したり、実際の書名ではなく「Opera（著作集）」、「Opus（作品）」、「Opuscula（小品集）」等の言葉で言い換えている場合があるため、どこまでが誤記であるのか判断できないことが多いからである。刊記の誤記を算定すると、印刷出版地の誤記は31件（ゲスナーの記述3,143件中1.0%）、印刷出版業者の誤記は93件（同2,447件中3.8%）、印刷出版年の誤記は103件（同2,698件中3.8%）であった。

印刷出版地における誤記の特徴としては、Baselに関係するものが多く、印刷出版地がStrassburgであるものをBaselと記述した例4件、HagenauをBaselと記述した例2件、逆にBaselと記述すべきものをArgentorati (Strassburg)、Coloniae (Köln)、Friburgi Brisgoiae (Freiburg im Breisgau)と記述した例もある（表1）。Baselが関係する誤記が多いのは『万有書誌』の中ではBaselの出版物が最も多数記述されていることと関係があろう⁷。

一方、現物には印刷出版地が記述されていない書物に対してゲスナーが印刷出版地を記述している例がある。Pisonis (Piso, Jakob), *Epistola ad Joan. Coritium de Conflictu Polonorum et Lituorum cum Moscovitis*, 1514の印刷地をVilnaeと記述している（563r）。本書を所蔵する図書館は極めて少なく、かろうじてバイエルン州立図書館に所蔵が確認されるが（BV001545455）、目録では印刷出版地が不明となっている。Vilnaeはリトアニアの首都ヴィリニウス（Vilnius）のラテン語形格であり、ゲスナーが収録した印刷本の印刷出版地としては最も北東の都市である⁸。ゲスナーがどのような情報に基づいてこの地名を記述したのかは定かでないが、16世紀当時この本の印刷出版地について何らかの確かな情報があり、ゲスナーがその通り記述したとすればこの情報は重要であろう。

次に、印刷出版業者の誤記については、バーセルの印刷出版業者の間での混乱が顕著である。中でもRobert Winterの記述では、Thomas Platterと記述すべきものをWinterとした例が19件もあった。WinterとPlatterの取違えはWinterがPlatterと共同で出版していた同時期にPlatterが別に

表1 印刷出版地の誤記 31件（ゲスナーの記述3,143件中1.0%）

ゲスナーの記述	正しい印刷出版地（ ）内は件数（1件は省略）
Argentorati (Strassburg)	Basel (2), Ingolstadt
Augustae (Augsburg)	Strassburg
Basileae (Basel)	Strassburg (4), Hagenau (2), Danzig, Mainz
Bononiae (Bologna)	Roma
Coloniae (Köln)	Basel (2), Mainz, Solingen
Francfordiae (Frankfurt am Main)	Ingolstadt
Friburgi Brisgoiae (Freiburg im Breisgau)	Basel
Haganoae (Hagenau)	Basel
Ingolstadij (Ingolstadt)	Augsburg (2), Nürnberg
Lugduni (Lyon)	Caen
Norinburgae (Nürnberg)	Hagenau
Romae (Roma)	Fano, Toscolano
Venetijs (Venezia)	Firenze, Reggio Emilia, Roma
Vicentiae (Vicenza)	Köln

Balthasar Lasiusとも共同出版を行っていたことと関係があるか。Platter等の印刷本をWinterのものとして誤ってみなした例としては、MARIJ Nizolij Brixellensisの項目(498r)の‘Observationes in Ciceronem……’という書名の印刷本の刊記をゲスナーは“Robert. Vuinter excudit Basileae, 1536. in fol. chartis 245.”と記述しているが、実際のコロフォンでは“BASILEAE, PER BALTHASAREM LA- | sium, & Thomaam Platterum, Mese | Augusto, Anno | M.D.XXXVI.”とあり、Balthasar LasiusとThomas Platterの共同刊行であることが明記されている。実は、Thomas Platterはチューリヒでツヴィングリ(Zwingli, Huldreich, 1484-1531)の助手を務めていたことから、ゲスナーは少年時代から彼を知っていたはずである。さらに、Platterは大聖堂グロスミュンスター(Grossmünster)付属の学校カロリヌム(Carolinum)で古典語教師を一時務めていたことから、ゲスナーは彼にラテン語やギリシア語を教わった可能性がある⁹。Platterは1531年のカッペルの戦いでツヴィングリが亡くなると、チューリヒからバーゼルに移って印刷業者になったのである。このような経緯を考慮するとPlatterとWinterの取違えは重大であろう。

また、Johann Oporinusに関しても誤記がしばしば見られ、Winterと取違えた例が5件あった。また、BebeliusとMichael Isengrinとの取違え4件、CurioとJohann Walderとの取違えが同様に4件あった。また、Bartholomaeus WestheimerとすべきところをWinter, Johann Oporinus, Nikolaus Brylingerなどと誤記したものが散見された。ゲスナーはバーゼルの印刷出版物を最大限に利用して『万有書誌』を編纂しており、バーゼルの出版事情に詳しくあったと思われるが、このような誤記が集中したのはゲスナーの記録に大きな混乱があったと考えざるを得ない(表2)。

表2 主な印刷出版業者名の誤記（印刷出版業者の誤謬 93件（2,447件中3.8%））

ゲスナーの記述	正しい印刷出版業者名（ ）は件数（1件は省略）
Adam Petri (Basel)	Valentin Curio, Thomas Wolff, Hieronymus Curio
Aldus (Venezia)	Francesco Mazzali, Giovanni Tacuino
Alexander de Lindonis (Venezia)	Marcantonio Moreto & Lorenzo Lorio
Alopecius (Köln)	Hero Fuchs (2)
Ascensius (Paris)	M. Vascosan (2), Ioannes Lodoicus Tiletanus, André Bocard
Bebelius (Basel)	Michael Isengrin (4), Andreas Cratander
Brylingerus (Basel)	Bartholomaeus Westheimer
Cl. Cheuallon (Paris)	Ioannem Parvum
Curio (Basel)	Johann Walder (4)
Egenolphus (Frankfurt am Main)	Peter Braubach, Alexander I Weißenhorn
Engillebertus de Marnef (Paris)	J. Longris
Froben (Basel)	Thomas d.Ä. Platter & Balthasar Lasius, Johannes d.Ä. Herwagen, Sigmund Grimm & Marx Wirsung
Georgius Rhuffnerus Iunior (Ingolstadt)	Alexander I. Weißenhorn
Gymnicus (Köln)	Robert Winter, Eucharius Cervicornus & Hero Fuchs
Hen. Petrus (Basel)	Johannes Faber aus Emmich, Andreas Cratander
Hieronymus Gormontius (Paris)	S. Colinaeus
Io. de Vingle (Lyon)	Étienne Gueynard
Io. Petri Vallae & Prj Bononiensis (Venezia)	Lazzaro Soardi
Ioan. Oporinus (Basel)	Robert Winter (5), Bartholomaeus Westheimer (2), Nikolaus Brylinger (3), Nikolaus Keßler, Johannes d.Ä. Herwagen, Franz Rhode
Ioan. Prael (Köln)	Johann I. Gymnich (2)
Ioannes Eleutherius (Köln)	Eucharius Cervicornus
Lucae Ant. Iunta (Venezia)	Girolamo Scoto
Matthias Bonhomen (Lyon)	Jacques Giunta
Matthias Schurerius (Strassburg)	Johann d.Ä. Prüß
Mich Hochstratanus (Strassburg)	Johann Schott
Nicolaus Buffer (Paris)	Roigny
Pet. Quentel (Mainz)	Franz Behem
Petrus Liechtenstein (Venezia)	Bonetus Locatellus for Octavianus Scotus
Rihelius (Strassburg)	Matthias Apiarius
Rob. Vuinter (Basel)	Johann Oporinus (2), Thomas d.Ä. Platter (19) & Balthasar Lasius, Nikolaus Brylinger, Johannes d.Ä. Herwagen, Michael Isengrin, Bartholomaeus Westheimer

印刷出版年では1年の誤差が36件、2-4年の誤差が35件、5-9年が16件、10年以上が15件であった（表3）。ゲスナーによる印刷出版年の誤記は単純な誤記や誤植が多いと考えられる。最も顕著な誤植の例としては、HERMANNVS Bodiusの項目では“opus utilissimum, impressum Coloniae apud Ioan. Gymnicum, 1633, iam denuo locupletatum in 8. Chartis 36. cum indice. (ケルンでヨハン・ギムニヒにて1633年に八折判36折丁で索引付きで印刷された大変有用でまったく新たに信頼のできる作品)”とあり(313v)、16世紀の人ゲスナーの記述としてはあり得ない印刷年「1633年」が記されている。本書の実際の印刷出版年はVD16によれば「1533年」であるので(VD16 B 6080)、「1533」が「1633」となっていた。これはゲスナーによる誤記というより、印刷上の誤植と考えたほうが合理的であろう。また、EVSTRATII Metropolitae Niceaeの項目には、“opus excusum Venetijs in fol. anno 15. (ヴェネツィアにて二折判で15年に作られた作品)”(238r)とある。「15年」は明らかに誤植であろう。

一方、ゲスナー自身の誤記と考えられる例もある。その例としてはSimpliciusの著作の印刷出版年の誤記がわかりやすい。ゲスナーはSIMPLICIVSの著作として“Interpretatio Graeca doctissima & dignissima lectu in Enchiridion Epicteti, impressa Venetijs, 1538, apud fratres de Sabio in 4. Chartis 26.”という記述を行ったが(600v)、EDIT 16ではヴェネツィアのSabbio兄弟が刊行したギリシア語版Simpliciusは1528年版(CNCE 18137)のみである。ゲスナーが印刷出版年を示すローマ数字MDXXVIIIをMDXXXVIIIと読み違えた可能性が高い。実際に10年の誤差の誤記は10件認められた。

ところが、ゲスナーは印刷本のコロフォンの記述の通り記述したが、実際はそのコロフォンの記述自体が間違っていた例がある。PETRI Ciruelli Darocensis Aragonisの項目では“co<m>mentarius uberrimus in Sphaerm mundi Ioannis de Sacrobusto, qui impressus est Parisijs, 1468. in fol. chartis 42. (パリで1468年に二折判42折丁で印刷されたヨハネス・サクロブストの『世界の天空』における充実した注釈)”(547v)と記述されている。しかし、パリで活版印刷が始まったのは1470年である。本書のコロフォンではそれにも拘わらず「1468年」の印刷年が記述された。インキュナブラ書誌Gesamtkatalog der Wiegendrucke (GW)によれば、本書の印刷事項は“Paris: Guy Marchant für Jean Petit, Februar 1468 [vielmer 1498]”と記述されており(GW M14614)¹⁰、「1498年」が実際の印刷年であったとみなされている。ゲスナーの時代にはこのような印刷出版事情はまった

表3 印刷出版年の誤謬 103件(同2,697件中3.8%)

ゲスナーの記述と実際の印刷出版年との誤差	件数
1年の誤差	36
2～4年の誤差	35
5～9年の誤差	16
10年以上の誤差	15

く知るよしもなかったため、ゲスナーは現物に記述されている通りに「1468」と記録したのである。

しかしながら、ゲスナーが記述した年に印刷された版が現存しない、あるいは利用した書誌・データベースにまだ収録されていないという可能性もあるため、今後の調査の進展では印刷出版年の誤記は減少する可能性があるだろう。

以上のように、ゲスナーによる誤記を算定したが、刊記における誤記は多くても3.8%であった。この数字を多いとみなすか少ないとみなすかは観点の違いとなるが、書誌学的な調査が行われたことがなく、いわば『万有書誌』がその最初の試みであったことを考慮すれば、ゲスナーの記述は比較的正確であるとみなせるのではないか。また、ゲスナーが実見した印刷本の中には刊記について十分な記述がなかったり、不正確であったり、印刷されていなかったりするものが相当数あったことから、ゲスナーはそれらを記録するのにかなり苦勞したことであろう。それらの中には彼が何らかの情報をもとに推定してしたものも少なからず含まれている。例えば、NICOLAVS Vallaの項目では“libros Iliadis Homeri, Rob. Vuinter excudit Ba = |sileae.”と記述してWinterの刊行と断定しているが(524r)、VD16では本書のパーゼルでの刊行は1541年版のみで印刷出版者は不明である(VD16 D 127)。

4. ゲスナーが利用した版

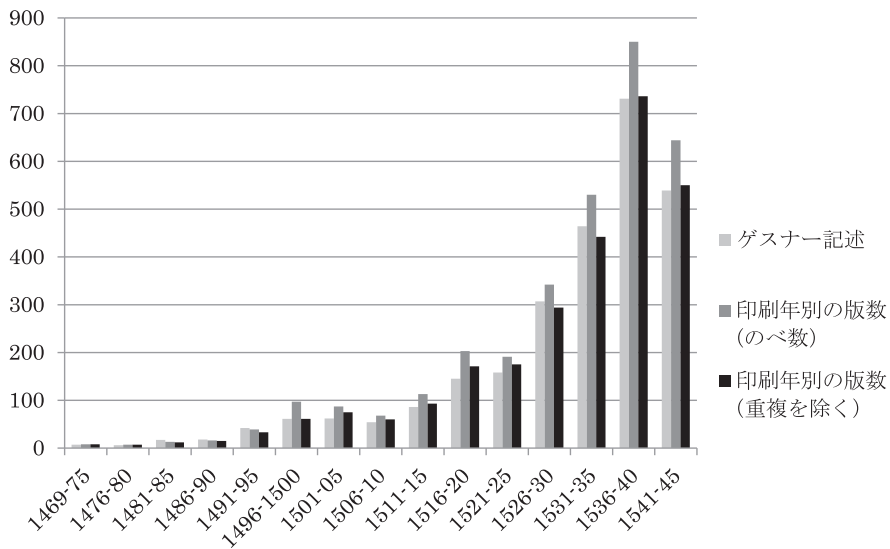
今回の調査によって版がある程度まで同定されたことでゲスナーが知りえた印刷本の版の実数を算定することが可能となった。ゲスナーは著者、訳者、校訂者などを副出し、書物に収録された複数の作品を分出していた¹¹。上記の3,210件からこのような副出・分出を除いた版数は2,734版であった。

『万有書誌』に収録された印刷本の印刷出版年の範囲は再調査の結果1469-1545年であった¹²。版を確認した際に印刷出版年不明が2書あったことから、ここで対象となる書誌は2,732版である。ゲスナーが記述した印刷出版年の件数、調査によって判明した版の印刷出版年別件数、そして重複を除いた2,732版の印刷出版年別の版数の表4とグラフ1に示した。なお、複数年にわたって刊行された多巻ものについては便宜的に最初の印刷出版年を採用した。

次に、収録された印刷本の印刷出版地が判明したのべ件数は3,199件であり、それから重複を除いた版数は2,722となった。それらの中から主要な印刷出版地を表5に示した。のべ件数では、パーゼル1,005件(31.4%)、ヴェネツィア452件(14.1%)、パリ304件(9.5%)、リヨン278件(8.7%)、シュトラスブルク245件(7.7%)、ケルン232件(7.3%)、チューリヒ76版(2.4%)、ニュルンベルク63版(2.0%)、ハーゲナウ(アゲノー)61版(1.9%)などである。重複を除いた版数では、パーゼル769版(28.3%)、ヴェネツィア351版(12.9%)、パリ293版(8.4%)、リヨン270版(8.4%)、シュトラスブルク215版(7.9%)、ケルン198版(7.3%)などとなり、ゲスナーはパーゼルとヴェネツィアの印刷本をさかんに副出、分出して重複して言及していたが、それ以下の都市の印刷本の重複した言及は比較的少ない傾向があったことが判明する。

表4 印刷出版年別のゲスナーの記述数と版数

印刷年	ゲスナー記述	印刷年別の版数（のべ数）	印刷年別の版数（重複を除く）
1469-75	7	8	8
1476-80	6	7	7
1481-85	17	13	12
1486-90	18	16	15
1491-95	42	39	33
1496-1500	61	97	61
1501-05	62	87	75
1506-10	54	68	60
1511-15	86	113	93
1516-20	145	203	171
1521-25	158	191	175
1526-30	307	342	294
1531-35	464	530	442
1536-40	731	850	736
1541-45	539	644	550
合計	2,697	3,208	2,732



グラフ1 印刷出版年別のゲスナーの記述数と版数

表5 主要な印刷出版地別ののべ版数と重複を除く版数

印刷出版地	のべ件数	比率 (%)	重複を除く版数	比率 (%)
Basel	1,005	31.4	769	28.3
Venezia	452	14.1	351	12.9
Paris	304	9.5	293	10.8
Lyon	278	8.7	270	9.9
Strassburg	245	7.7	215	7.9
Köln	232	7.3	198	7.3
Zürich	76	2.4	69	2.5
Nürnberg	63	2.0	53	1.9
Hagenau	61	1.9	54	2.0
Frankfurt am Main	49	1.5	45	1.7
Augsburg	45	1.4	43	1.6
Wittenberg	35	1.1	31	1.1
Mainz	29	0.9	27	1.0
Roma	29	0.9	29	1.1
Marburg	27	0.8	24	0.9

印刷出版業者ではのべ3,130件の業者名を確認し、重複を除いた版数が2,659版であり、主要な印刷出版業者を表6に示す。のべ件数で最多を占めたヴェネツィアのAldo Manuzioとその後継者のものが181版(5.8%)、バーゼルのAdam & Heinrich Petri父子が174版(5.6%)、リヨンのGryphiusが163版(5.3%)、バーゼルのFrobenが148版(4.8%)、同Robert Winterが118版(3.8%)、同Andreas Cratanderが105版(3.4%)などである。この結果は拙稿で示した上位5業者と順位は異なるが顔ぶれは変わらない¹³。一方、2,659版の中で最多となったのはリヨンのGryphiusであり159版、次いでバーゼルのPetri親子で130版、続いてFroben親子の121版、のべ件数で最多であったAldo Manuzioとその後継者の版は111版であった。続いてバーゼルのWinterが88版、同Cratanderが83版、ケルンのGymnichとパリのWechelが74版であった。のべ件数の比率と比較して重複を除いた版数の比率が著しく下がっている印刷出版業者、例えばAldo Manuzioとその後継者、Adam & Heinrich Petri、Robert Winter、Johannes Herwagenについては版が重複して何度も言及されたということになる。一方、その逆に比率が上昇している印刷出版業者、例えばSébastien Gryphius、Chrétien Wechel、Christoph Froschauerは重複した言及が少なかったということができる。

さらに、ゲスナーがどのような版を繰り返し重複して記載していたかを調査した。版を同定することによって判明した重複した書誌データは834件抽出された。大半は2回ないし3回の重複であるが、4回以上の重複について表7に示した。最多では21回言及された版が1つ、8回が3版、7

表6 ゲスナーが利用した印刷本の主要な印刷出版業者の言及のべ件数と重複を除く版数

印刷出版地	印刷出版業者	のべ件数	比率%	重複を除く版数	比率%
Venezia	Manuzio, Aldo & eredi	181	5.8	111	4.2
Basel	Petri, Adam & Heinrich	174	5.6	130	4.9
Lyon	Gryphius, Sébastien	163	5.2	159	6.0
Basel	Froben, Johann & Hieronymus	148	4.7	121	4.6
Basel	Winter, Robert	118	3.8	88	3.3
Basel	Cratander, Andreas	105	3.4	83	3.1
Köln	Gymnich, Johann	89	2.8	74	2.8
Paris	Wechel, Chrétien	74	2.2	74	2.8
Zürich	Froschauer, Christoph	74	2.2	67	2.5
Basel	Herwagen, Johannes	66	2.1	41	1.7
Basel	Oporinus, Johann	61	1.9	49	1.8
Basel	Westheimer, Bartholomarus	58	1.9	50	1.9
Venezia	Scoto, Ottaviano & Girolamo	54	1.7	50	1.9
Strassburg	Rihel, Wendelin	50	1.6	40	1.5
Nürnberg	Petreius, Johann	48	1.5	39	1.5
Paris	Colines, Simon de	42	1.2	42	1.6
Basel	Bebel, Johann	41	1.3	32	1.2
Basel	Platter, Thomas	38	1.2	25	1.0
Hagenau	Setzer, Johann	38	1.2	34	1.3
Paris	Estienne, Robert	34	1.1	32	1.2
Frankfurt am Main	Egenolff, Christian	34	1.1	33	1.2
Köln	Cervicornus, Eucharius	34	1.1	27	1.0

回が1版、6回が4版、5回が7版、4回が17版であった。

これらの中で5回以上重複して使用された書誌データを表8に示す。これらの印刷本には多数の著者の作品が含まれているため、それぞれの著者、編者、注釈者等から言及されたのである。21回繰り返して言及された *Epistolae diversorum philosophorum, oratorum, rhetorum* は2巻本で古代ギリシア・ローマの哲学者、弁論家、修辞学者26人のギリシア語の手紙が収録されている。ゲスナーはその中から都合20人の項目で本書に言及した¹⁴。8回では、Guido de Cauliaco, *Chirurgia* にはGuido de Cauliacoを含めて10人の解剖学者の著書が収録されているため、ゲスナーは彼らのうち8人の項目で本書に言及した。また、*Orationes horum rhetorum Aeschinis. Lysiae. Alcidasantis* には古代ギリシアの弁論家13人の弁論が収録されていることから、そのうち8人の項目において言及している。また同様に *Rhetores* には古代ギリシアの修辞学者10人の修辞学書が収録されているため、ゲスナーは繰り返して言及した。7回の *Codicis Theodosiani libri XVI* は東ローマ帝国のテオド

表7 ゲスナーが重複して使用された書誌データ（4回以上）

情報源	ID	重複回数	情報源	ID	重複回数
ISTC	ie00064000	21	EDIT 16	CNCE 46864	4
EDIT 16	CNCE 2146	8	ISTC	ij00419000	4
EDIT 16	CNCE 37441	8	VD16	D 127	4
ISTC	ig00559000	8	VD16	D 1849	4
VD16	O 1404	7	VD16	E 4729	4
EDIT 16	CNCE 37529	6	VD16	F 1697	4
VD16	F 1119	6	VD16	G 1081	4
VD16	P 4983	6	VD16	G 1372	4
VD16	R 3165	6	VD16	G 542	4
VD16	A 3609	5	VD16	H 4860	4
VD16	B 5023	5	VD16	O 319	4
VD16	P 3676	5	VD16	O 727	4
VD16	P 5204	5	VD16	O 766	4
ISTC	ip01089000	5	VD16	P 4177	4
VD16	S 8303	5	VD16	S 1248	4
VD16	Z 506	5	VD16	ZV 18170	4
EDIT 16	CNCE 334	4			

表8 5回以上重複して使用された書誌データ

No	重複回数	掲載箇所	著者名	書名	印刷出版地	印刷出版者	印刷出版年	書誌データID
1	21	5v, 14r, 37r, 66r, 164v, 313r, 469v, 482v, 489r, 494v, 513v, 514v, 514v, 554r, 555r, 561v, 562v, 574v, 606v, 606v, 615r		<i>Epistolae diversorum philosophorum, oratorum, rhetorum</i>	Venezia	Aldo Manuzio	1499	ISTC ie00064000
2	8	149v, 161r, 286r, 372r, 475v, 480r, 586r, 609r	Guido de Cauliaco	<i>Chirurgia</i>	Venezia	Simon de Luere	1499	ISTC ig00559000
3	8	21r, 49v, 318r, 467r, 468v, 482r, 489r, 489r		<i>Orationes horum rhetorum Aeschinis. Lysiae. Alcidasantis</i>	Venezia	Aldo Manuzio	1513	EDIT 16 CNCE 37441
4	8	27v, 68r, 195r, 212v, 316r, 491v, 601r, 606v		<i>Rhetores</i>	Venezia	Aldo Manuzio	1508	EDIT 16 CNCE 2146

5	7	487r, 490r, 498v, 499v, 515v, 597r, 612r	Theodosius	<i>Codicis Theodosiani libri XVI</i>	Basel	Heinrich Petri	1528	VD16 O 1404
6	6	315v, 471r, 495v, 511r, 523r, 630v	Firmicus Maternus, Julius	<i>Iulii Firmici Materni Iunioris Siculi V.C. ad Mauortium Lollianum Astronomicon Lib VIII</i>	Basel	Johannes Herwagen	1533	VD16 F 1119
7	6	499r, 499v, 510v, 512v, 569r, 606v	Iamblichus	<i>Iamblichus de mysteriis</i>	Venezia	Aldo Manuzio & Andrea Torresani	1516	EDIT 16 CNCE 37529
8	6	167v, 185r, 465v, 480r, 571v, 578v	Procopius	<i>De Rebus Gothorum</i>	Basel	Johannes Herwagen	1531	VD16 P 4983
9	6	360v, 369v, 373v, 487r, 491r, 552r	Rossi, Lucio Vitruvio	<i>De docendi studendique modo, ac de claris puerorum moribus</i>	Basel	Robert Winter	1541	VD16 R 3165
10	5	68v, 367r, 465v, 481v, 585v	Aratus	<i>Sphaerae atque astrorum coelestium ratio, natura, & motus</i>	Basel	Johann Walder	1536	VD16 S 8303
11	5	434v, 511r, 526v, 562r, 619v	Aristoteles	<i>De mundo Aristotelis Lib. I. Philonis Lib. I.</i>	Basel	Johann Walder	1533	VD16 A 3609
12	5	434v, 511r, 526v, 562r, 619v	Lonicer, Johannes <der Altere>	<i>Veteris cuiuspiam theology Graeci succincta in D. Pauli ad Romanos Epistolam Exegesis, ex Graecis Sacrae Scripture</i>	Basel	Robert Winter	1537	VD16 B 5023
13	5	288v, 532v, 550v, 565v, 578r	Plutarchus	<i>Plurtarchi Chaeronei philosophi historicique clarissimi, Opuscula <quae quidem extant> omnia</i>	Basel	Andreas Cratander	1530	VD16 P 3676
14	5	147r, 298v, 315v, 511r, 630v	Ptolemaeus, Claudius	<i>Quadripartitum</i>	Venezia	Bonetus Locatellus, for Octavianus Scotus	1493	ISTC ip01089000
15	5	175v, 272v, 273r, 375r, 571r	Ptolemaeus, Claudius	<i>Claudii Ptolemaei Pelusiensis Alexandrini Omnia, quae extant, Opera, Geographia excepta</i>	Basel	Heinrich Petri	1541	VD16 P 5204
16	5	43r, 143r, 381v, 523r, 543v	Zimmermann, Joseph	<i>Morbi Gallici curandi ratio exquisitissima, a uarijs, iisdem<que> peritissimis medicis conscripta</i>	Basel	Johann Bebel	1536	VD16 Z 506

シウス帝（Theodosius, 在位 379-95）時代に編纂された文書集で、テオドシウス帝をはじめとする7人の著者の項目で本書が言及されている。

ゲスナーが繰り返し言及したこれらの文献の特徴は、ギリシア人およびギリシア古典書が大半を占めていることである（表8, No.1, 3-5, 7, 8, 10-15）。この傾向は人文主義者としての彼の学問的な関心をよく示していると言えよう。ヴェネツィアの Aldo Manuzio の印刷本が4書含まれているのもその反映であろう。これら16点の印刷本はヴェネツィア版が6書、バーゼル版10書である。重複21回から8回まではいずれもヴェネツィアの印刷本であり、7回から5回の大半がバーゼル印刷本となる。つまり、ゲスナーは『万有書誌』を執筆する際にヴェネツィア版とバーゼル版を頻繁に参照していたことになる。

5. 『万有書誌』に収録された俗語文献

版を同定する過程でラテン、ギリシア、ヘブライ語以外の言語のいわゆる俗語文献が収録されていることが判明した。今回の調査でドイツ語文献が31件、フランス語文献が6件、イタリア語文献が3件を確認した。イタリア語以外の俗語文献では「ドイツ語書（Liber Germanicus）」（415v）、「ジャン・カルヴァンによりフランス人の言葉で執筆された書物（Libri à Io. Caluino Gallice scripti）」（396v）、「彼はさらにドイツ語で執筆した（Scripsit etiam Germanice）」（501r）等とラテン語で俗語を明記してラテン語書名を記述している。特に、Bullinger（307r）、Calvin（396v）¹⁵、

表9 『万有書誌』に収録された主な俗語文献

掲載箇所	著者名 (俗語書件数)	ラテン語書名の1例	言語	俗語文献書名	印刷出版地	印刷出版年
307r	Bullinger, Heinrich (3)	Prosopopoeia expostulationis Dei	独	<i>Anklag vnd ernstliches ermanen Gottes Allmechtigen zu einer gemeinen Eydgnoschafft</i>	Zürich	1528
435r	Ioan. Maire Belga (1)	Galliae illustrationem, & de rebus Troiae excellentibus	仏	<i>Les illustrations de Gaule : [&] singularitez de Troye</i>	Lyon	1528
444v	Ökolampadius, Johannes (3)	De sacramento Eucharistiae	独	Vom Sacrament der Dancksagung. Von dem waren nateurlichen verstand der worten Christi	Basel	1526
501r	Bucer, Martin (2)	De uera animarum cura librum & Catechismum nimorem	独	<i>Von der waren Seelsorge vnnd dem rechten Hirten</i>	Strassburg	1538
503r	Luther, Martin (4)	Caalogus operum à Matino Luthero	独	<i>Catalogus oder Register aller Buecher vnd schrifftn D. Mart. Lut.</i>	Wittenberg	1533
595r	Serlio, Sebastiano (1)	de architectura tomi due	伊	<i>Regole generali di architettura di Sebastiano Serlio bolognese</i>	Venezia	1540

Oecolampadius (444v), Bucer (501r), Luther (503v) という宗教改革指導者については俗語文献を数書ずつリストアップしている。さらに、Luther ではヴィッテンベルクで 1533 年に刊行された Luther 著作目録 *Catalogus oder Register aller Buecher vnd schriften D. Mart. Luth* (VD16, L3449) を全文ラテン語に翻訳して掲載している (503v-505v)。ゲスナーのプロテスタンティズムが垣間見られるところである¹⁶。しかし、イタリア語書にはこのような説明がないため、ゲスナーはそれらの現物を確認することができずイタリア語の書名を俗語と認識していなかった可能性がある¹⁷。

6. まとめ

以上のように『万有書誌』に収録された印刷本の版を確定して、ゲスナーの刊記の記述の正確性を検証したが、誤記はあるものの誤りは全体的には少なく、書誌学発達以前で書物の分析方法が確立していなかった時代にあつては相当に正確であったとみなすことができた。

重複して記載された印刷本の記述を除いた版数は 2,734 版であり、ゲスナーはこれらを基に印刷本を多面的に情報化して『万有書誌』に掲載していたことが判明した。2,734 版は、印刷出版年の範囲が 1469-1545 年であり、印刷出版地はバーゼルが 28.3% を占めて最多であることに変わりがなく、次いでヴェネツィア 12.9%、パリ 8.4%、リヨン 8.4%、シュトラスブルク 7.9%、ケルン 7.3% の順で上位の印刷出版地にはほとんど変動がなかった。一方、重複を除いた版の印刷出版者では最多がりヨンの Gryphius が 159 版、次でバーゼルの Petri 親子が 130 版、続いて Froben 親子の 121 版、そして Aldo Manuzio とその後継者が 111 版であり、重複掲載を含む件数と比較すると順位に変動が見られた。これは重複して記載された版が多い印刷出版者ほど件数と版数とに差が出た結果である。

そして、繰り返し記載された版では Aldo が刊行した *Epistolae* が 21 回と最多で、次いで Guido de Caulibus, *Chirurgia*, Aldo 刊行の *Orationes* と *Rhetores* がそれぞれ 8 回ずつであった。次いでが 7 回の *Codicis Theodosiani* がバーゼル版であった。21 回から 5 回にわたって重複して記載された印刷本はヴェネツィア版とバーゼル版で占められていた。これらの多くがギリシア古典書であり、人文主義者ゲスナーの学問的関心をよく示している。

さらに、ラテン、ギリシア、ヘブライ 3 言語以外に実はドイツ語、フランス語、イタリア語の俗語文献が少なくとも 40 件収録されており、特に宗教改革指導者の俗語文献が顕著であった。その中には 1533 年にドイツ語で刊行されたルター著作目録が含まれており、ゲスナーのプロテスタンティズムを見ることができた。

最後に今後の研究課題であるが、分類書誌『万有書誌』第 2 巻 (2 分冊) の研究史を整理し問題点を明らかにし、個々の文献がどのように分類されたのかを調査する。そして、『万有書誌』第 1 巻の書誌データを続巻の分類書誌『総覧』(Zürich, 1548) および『神学の分類』(Zürich, 1549) でどのように利用したのかという点について考察して、ゲスナーによる文献情報の収集、蓄積、組織化の仕組みの全容を解明することである。

付記

本研究は2014年5月24日に日本女子大学目白キャンパスで開催された2014年度日本図書館情報学会春季研究集会で発表した内容を大幅に改訂増補したものである。

本研究はJSPS 科研費 25330401 の助成を受けたものです。

[注]

- 1 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌的源泉」『学術研究：教育学・生涯教育学・初等教育学編』59 (2011), p. 47-71.
- 2 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』と宗教改革」『学術研究：人文科学・社会科学編』60 (2011), p. 61-80.
- 3 拙稿, 「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」『学術研究：人文科学・社会科学編』61 (2012), p. 91-116.
- 4 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本について」『2013年度日本図書館情報学会春季研究集会発表論文集』(2013), p. 1-4; 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本について」『学術研究：人文科学・社会科学編』62 (2013), p. 77-97.
- 5 URL: <http://thesaurus.cerl.org/cgi-bin/search.pl?start=true> (accessed 2014-4-16).
- 6 ゲスナーが記述する印刷出版年で同一本が同じ印刷出版業者から2回発行されるような場合には版の同定は不可能であった。また、ゲスナーが印刷地、印刷年、印刷業者のいずれかをまちがって記述した場合には版の確定が十分でない場合もあった。さらに、ゲスナーによる書名の記述が簡略すぎる、あるいは不正確なため同定が不十分な場合もあった。
- 7 『万有書誌』に収録されたBaselの印刷本はのべ1,214回言及され、収録された全印刷本の31.5%を占めている(拙稿, 「コンラート・ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本について」p. 82-83参照)。
- 8 拙稿, 「コンラート・ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本について」『学術研究：人文科学・社会科学編』62 (2013), p. 84-85.
- 9 Salzmänn, C., Conrad Gessners Persönlichkeit 26. März 1516 bis 13. Dezember 1565, *Gesnerus: Vierteljahrsschrift für Geschichte der Medizin und der Naturwissenschaften*, Jg. 22, Heft 3/4, 1965, S.116, Anm. 4; Braun, L., *Conrad Gessner*, Genève: Editions Slatkine, 1990, p. 20.
- 10 Gesamtkatalog der Wiegendrucke, URL: <http://www.gesamtkatalogderwiegendrucke.de/docs/M14614.htm>, (accessed 2014-10-5).
- 11 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本について」『学術研究：人文科学・社会科学編』62 (2013), p. 95.
- 12 前掲書では筆者はその範囲を1473-1545年としていたが(p. 82), その後の調査で1469年刊行書が含まれていることが判明した。1469年刊行書はApuleius, Opera, Roma: [Conradus Sweynheym and Arnoldus Pannartz], 1469 (ISTC ia00934000)である(21r)。
- 13 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』に収録された印刷本について」『学術研究：人文科学・社会科学編』, p. 86, 表3.
- 14 21回の言及は次の箇所である。AVERROYS Cordubensis (100r), AVGVSTINVS Niphus Philotheus Suessanus (109r), BARTOLEMAEI Montagnanae (134v), BETHEM (147r), Dante Alighierus (193r), HALI Rodoham Aegyptij (298v), HERMES (315v), IACOBVS Mantinus (358v), IOANNES Arculanus Veronensis (383v), IOANNIS de Concoregio Mediolanensis (408v), IOANNES Duns (413r), IOANNES Michael Sauonarola Patauinus (438r), IOANNES Platearij Salernitani (448v), MESSAHALLACH (511r), NICOLAI Massae (522r), PETRI de Aluernia (543v), RAPHAEL Regius (578r), Rasis medicus Arabs (578v), THOMAS de Aquino (617r), ZAHEL Bombiz Ismarlitae (630v), ZOAR (631r)。
- 15 Calvinの項目ではフランス語書が3点挙がっているが(396v), それらはいずれも版が同定できなかった。

- 16 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』と宗教改革」『学術研究：人文科学・社会科学編』60（2011），p. 76.
17 拙稿「コンラート・ゲスナー『万有書誌』の書誌記述要素の起源について」『学術研究：人文科学・社会科学編』61（2012），p. 116，注54.

[利用した主な15-16世紀印刷本書誌，文献情報データベースおよび蔵書目録]

印刷本書誌

- Baudrier, J. *Bibliographie lyonnaise: recherches sur les imprimeurs, libraires, relieurs et fondeurs de lettres de Lyon au XVIe siècle*. Paris: F. de Nobele (reprint of the 1895-1921 ed.).
NB Pettegree, A. and M. Walsby. *Netherlandish books: books published in the Low Countries and Dutch books printed abroad before 1601*. Leiden: Brill, 2011.
RB16 Répertoire bibliographique des livres imprimés en France au seizième siècle, 2^e éd. Baden-Baden: Valentin Koerner, 1989-2000.
Renouard, A. A. 1843 *Annales de l'imprimerie des Estienne, ou Histoire de la famille des Estienne, et de ses éditions*. Paris: Jules Renouard.
Renouard, P. 1967 *Bibliographie des impressions et des oeuvres de Josse Badius Ascensius, imprimeur et humaniste 1462-1535*. New York: Burt Franklin (reprint of the 1908 ed.).
Renouard, P. 1990 *Bibliographie des éditions de Simon de Colines 1520-1546*. Nieukoop: De Graaf (reprint of the 1894 ed.).

文献情報データベースおよび蔵書目録

- Bibliothèque municipale de Lyon Catalogue +. URL: <http://autonomy.bm-lyon.fr/retina/public/basic.do> (accessed 2014-10-6).
Bibliothèque royale de Belgique Belgica. URL: http://belgica.kbr.be/fr/coll/ouvRef/ouvRefCatal_fr.html (accessed 2014-10-6).
BL British Library. Explore of the British Library. URL: http://catalogue.bl.uk/primo_library/libweb/action/search.do?dscnt=1&fromLogin=true&dstmp=1397612722142&vid=BLVU1&fromLogin=true (accessed 2014-10-6).
BNF Bibliothèque nationale de France. Catalogue général. URL: http://catalogue.bnf.fr/jsp/recherchemots_simple.jsp?nouvelleRecherche=O&nouveaute=O&host=catalogue (accessed 2014-10-6).
BVB Bayerische Staatsbibliothek. Gateway-Bayern.com. URL: https://opacplus.bib-bvb.de/TouchPoint_touchpoint/start.do?SearchProfile=Altbestand&SearchType=2 (accessed 2014-10-6).
e-rara. URL: <http://www.e-rara.ch/> (accessed 2014-10-6).
EDIT 16 Istituto Centrale per il Catalogo Unico delle biblioteche italiane e per le informazioni bibliografiche - ICCU. EDIT 16: censimento nazionale delle edizioni italiani del XVI secolo. URL: http://edit16.iccu.sbn.it/web_iccu/ihome.htm (accessed 2014-10-6).
GW Staatsbibliothek zu Berlin. Gesamtkatalog der Wiegendrucke. URL: <http://www.gesamtkatalogderwiegendrucke.de/> (accessed 2014-10-6).
ISTC British Library. Incunabula Short Title Catalogue. URL: <http://www.bl.uk/catalogues/istc/index.html> (accessed 2014-10-6).
Koninklijke Bibliotheek KB-catalogus. URL: <http://opc4.kb.nl/> (accessed 2014-10-6).
OCLC WorldCat. URL: <http://www.worldcat.org/advancedsearch> (accessed 2014-10-6).
Österreichische Nationalbibliothek Kataloge der Österreichischen Nationalbibliothek. URL: <http://www.onb.ac.at/kataloge/> (accessed 2014-10-6).
VD 16 Bayerische Staatsbibliothek. Verzeichnis der im deutschen Sprachbereich erschienenen Drucke des 16. Jahrhunderts (VD16). URL: <http://www.bsb-muenchen.de/16-Jahrhundert-VD-16.180.0.html?L=3> (accessed 2014-10-6).